

4 ^{のうすいさんぶつ ゆしゅつ} 農水産物の輸出

①輸出の^{れきし}歴史

鳥取県における農水産物の輸出は、「二十世紀なし」を1933年（昭和8年）から中国、朝鮮半島、台湾などに住んでいる日本人向けに送ることから始まったという古い歴史があります。

第二次世界大戦中は一時的に中断しましたが、その後、新たな国々へ輸出を行い、多いときには1万トン以上の果物が世界各国（多いときで22か国）の人たちにとどけられていました。

②果物輸出の中心「二十世紀なし」

果物輸出の柱は、なんといっても二十世紀なしです。二十世紀なしは他のなしに比べてたいへん日持ちがよく、船で長い時間をかけてさまざまな国に輸送することができることから、輸出に適した果物です。

また、長年にわたり輸出に取り組んできた人たちの努力によって、文化や考え方がちがう国々の人たちとの信頼関係をきずいてきたことが輸出の土台となっています。中でも台湾や香港などでは秋に親しい人へおくり物をする習慣があり、青く美しい二十世紀なしは高級果物として人気があります。また、東南アジアやアメリカ、カナダ、ヨーロッパなど、広く多くの国々へ輸出され、1985年（昭和60年）には輸出量が12,134トンに達しました。



スーパーマーケットの店頭に
ならぶ鳥取県産なし(香港)

③近年の農水産物輸出

近年、二十世紀なしの輸出量はおよそ230トンまでへりましたが、しゅうかく時期^{じき}の異なる「王秋^{おうしゅう}」や「あたご」^{しんひんしゅ}、新品種^{しんかん}「新甘泉^{せんかん}」も輸出し、鳥取県産^{さん}のなしを海外で長い期間はん売^{はんばい}できるように取り組んでいます。

「富有柿^{ふゆうがき}」も輸出に適^{てき}した果物で、1982年（昭和57年）から東南アジアに輸出されてきました。タイでは特に柿^{とく}の人氣^{かき}が高く、新品種^{とく}「輝太郎^{きたろう}」の輸出も始^{はじ}まっています。

「すいか」の輸出は2014年^{へいせい}（平成26年）から本格的に始^{ほんかくてき}まり、今では毎年およそ26トン出荷^{しゅっか}されるほど香港でのはん売^{はんばい}が定着^{ていちゃく}しました。

また、国内でも有数^{ゆうすう}の水あげ量をほこる「境港^{さかいこう}」では、貿易会社^{ぼうえきがいしゃ}が「マサバ」、「アジ」、「ブリ」な

どたくさんの魚を買ってベトナム、タイなど東南アジアを中心に輸出しています。この貿易会社が輸出する水産物の金額^{きんがく}は、鳥取県の農水産物などの輸出金額^{きんがく}の約3割^{やくわり}になります。



百貨店での「新甘泉」の
はん売の様子(台湾)



すいかのはん売の様子(香港)

④新しい輸出の取り組み

外国の人に鳥取県産の農水産物を食べてもらうには、はじめに鳥取県のことをよく知ってもらうことが大切です。そのため、鳥取県を好きになってもらい、鳥取県に来ていろんなものを食べてもらえるように、鳥取県の食のみ力を伝えていく取り組みを行っています。

鳥取和牛の輸出は、香港、台湾、タイなどに向けて2016年（平成28年）から始まっています。

また、鳥取県の農水産物をスーパーマーケットなどでは販売してもらうだけでなく、それをもっとおいしく食べてもらえるように工夫しています。このことで、多くの外国の人に鳥取県のみ力を感じてもらい、鳥取県産の農水産物の人気や価値があがっていくように取り組んでいます。



高級ホテルでの鳥取和牛を用いた
メニューの提供(タイ)



飲食店と連携した鳥取県産柿
メニューの提供(台湾)